The Osaka University Library Bulletin

大阪大学図書館報

Vol. 4 No. 4 July 1970

私の図書館利用

吉　川　敏　枝

私が阪大入学当時（8年前になるが）は，図書館本館は食堂の上の一階しかなく，一つきりの閲覧室はいつも満員であった。特に冬期は，教室に暖房設備がなかったので，暖かい場所を求めて，多勢が図書館におし寄せていたから，かなり混雑しており，学生控室の感が強かった。当時は学内の諸設備が今よりも整っていなくて，教養部の学生の居場所がなかったから，図書館閲覧室は，自習室あるいは控室として利用されることが多かったようである。私も教養課程の頃は，閲覧室を自習のための場所と心得て，ひんぱんに出入りした一人であった。

残念ながら蔵書数は非常に少なくて，レポートを書くために必要な参考書を捜して，満足にみつかったためしがなかった。そこで仕方なく，他の図書館に頼らざるを得ないことになり，レポート提出前にはせっせと中之島の府立図書館に通った。現在は蔵書数も大巾に増えているが，まだまだ充分とはいえないようである。つい先日も，目指す本が少しもない，と教養課程の学生がこぼしているのを聞いた。もっとも，本館の書架に置かれているもの以外の，学部の図書室や研究室管理の図書の利用に関して，一般に学生の人達がどの程度知っているのか問題である。少なくとも，私が教養課程の頃は，これらの図書を利用することを知らなかった（専攻予定の心理学研究室にはよく出入りしていたから別であるが）し，現在，私の居る研究室で管理している公用貸出の図書を利用しに来る学生もいない。現在の阪大のように，図書が各所に細かく分散されているあり方においては，蔵書に関する情報がよほど整えられていなければ，せっかく貴重な図書も利用価値が低くなって惜しいことだと痛感する。私の研究室でも，利用に便利なようにと，公用貸出で預っている図書の目録カードを整理中であるが，わずかの本であるにも拘らず，この作業は面倒で，なかなかはかどらない。

学部に進学してから後は，研究室管理の専門書を主に利用するようになって，本館にはあまり出入りしなくなっていたが，近年，また，図書館には大いにお世話になっている。専ら文献集めのためで，研究室にない文献の所在場所を調べたり，取寄せて頂いている。ところで，学内の図書館分館にある文献は勿論すぐに手に入るのであるが，他大学の図書館に複写を依頼した文献は何か月も経たないと送られてこない。まさしく忘れた頃にやってくるのである。外国からならいざ知らず，国内でこんなに月日のかゝるのはいったいどうしたわけかと理解に苦しむ。大学間いや日本中のあらゆる研究機関や図書館の間の文献情報，交換のサービスが充分に且つ迅速に行われるように早くなってほしいものである。　（よしかわとしえ：教養部助手）

白書類を収集中—本館—

本館では，従来貧弱であったレファレンス・ブックの充実に努めているが，その一環として，本年度から，次の白書類を収集することになった。

（書　　名）	（通　称　名）	（編　　者）
青少年問題の現状と対策	青少年白書	総理府
陸上における交通事故	交通安全白書	〃
原子力年報	原子力白書	原子力委員会
公正取引委員会年次報告	独占白書	公正取引委員会
年次経済報告	経済白書(総論)	経済企画庁
〃	〃　(総論編付・参考資料)	〃
図説経済白書	図説「経済白書」	〃
年次世界経済報告	世界経済白書	〃
昭和〜年度国民生活白書	国民生活白書	〃
科学技術白書	科学技術白書	科学技術庁
観光の状況等に関する年次報告	観光白書	総理府
行政改革の現状と課題	行政改革白書	行政監理委員会
	国民の経済白書	平和経済会議経済白書委員会
図説日本の財政	財政白書	小田村四郎
犯罪白書	犯罪白書	法務省法務総合研究所
厚生行政年次報告書	厚生白書	厚生省
国民栄養の現状	国民栄養白書	厚生省公衆衛生局栄養課
わが国の私立学校	教育白書	文部省
基礎科学白書第2集		日本学術会議
婦人労働の実情	婦人労働白書	労働省婦人少年局
労働経済の分析	労働白書	労働省
高度産業社会への対応	労使関係白書	日本生産性本部
国土建設の現況	建設白書	建設省
運輸経済年次報告書	運輸白書	運輸省
日本海運の現状	海運白書	〃
海上保安の現況	海上保安白書	海上保安庁
地方財政の状況	地方財政白書	自治省
火災の実態と消防の現状	消防白書	消防庁
わが外交の近況 No 13	外交青書	外務省
公害の状況に関する年次報告	公害白書	各　省

学内図書共通貸出制度改正 —6月15日より実施—

図書館が利用者に資料をどのように提供するか，このことは情報活動の中でも最も重要な機能である。その方法も館外貸出，複写サービス，館内閲覧あるいはコンテンツ・サービスもこのうちにはいるであろう。最近の閲覧業務の中でも複写業務の占める割合が非常に大きくなっているが，しかしながら従来からの館外貸出も増加の一途をたどっている。本学の本館分館(室)のほとんどで館内閲覧はもとより，複写サービスを実施している。館外貸出も事前に手続さえ受けておけば借り出せないことはなかった。この方法では，緊急な場合とか，手続を怠った場合などほとんど利用できないことが多く大変不便であった。そこで今回従来の「共通閲覧券」制度を廃止し，所属の館で発行を受けた貸出券を同時に「共通貸出券」としても使えるよう制度を改め，6月15日より全館（室）一斉に実施された。

図書共通貸出券制度　改正規則

図書貸出券

1）それぞれ所属の館で発行を受けた貸出券を「共通貸出券」として使用する。

2）「共通貸出券」には(共)印を捺印する。

3）中之島，工学部，理学部図書室等で発行している貸出券のうち2枚を「共通貸出券」とする。

4）教養部および文・法・経・社研の教職員学生に発行する本館貸出券にはすべて(共)印を必要とする。（上記以外の者でも本館貸出券の発行を受けられるが「共通貸出券」として使用できない。

貸出規則

1）貸出規則は相手館の規則に従う，ただし貸出冊数および罰則は全館共通の規則を設ける。

2）貸出冊数

教職員学生を問わず，全館含め2冊以内とする。

罰　則

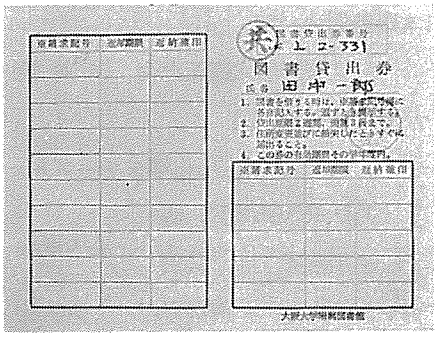
1）貸出期限を1週間以上超過すれば「共通貸出券」の資格を抹消する。

a）Brown 方式　1回違反した場合2枚のうち1枚が無効になり，その年度内は残りの1枚でしか借りることができない。

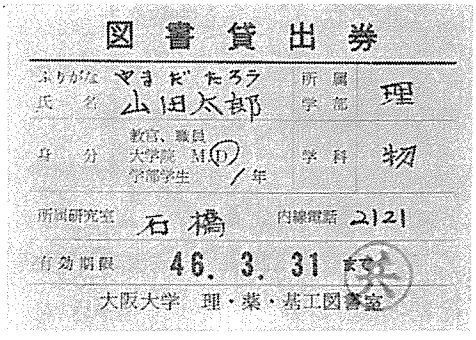
b）Nework 方式　1回違反すると，貸出券にその由捺印され，上と同じく1冊しか借りることができない。

なお「共通貸出券」としての資格を失っても所属の館では従来通り有効である。

またこの罰則は45年度中を試験期間とし，成績のいかんによっては改正することもある。



本館(Nework 方式)



中之島（Brown 方式）

学生希望図書 —本館—

昭和45年3月～6月のリクエストで受入済みのもの

立正安国論講義　池田大作　創価学会

アメリカ人の日本研究
宮本又次　編　東洋経済新報社

代数幾何学入門　中野茂男　共立出版

地に呪われたる者
（フランツ・ファノン著作集3）
鈴木道彦・浦野衣子訳　みすず書房

進歩・平和共存および知的自由
サハロフ著　上甲太郎　大塚寿一訳
みすず書房

混合経済　鈴木幸夫著　潮出版

経済思想の革新（NHK ブックス）
正村公宏著　日本放送出版協会

日本の技術者　星野芳郎　編　勁草書房

孤独な群衆
リースマン・D 加藤秀俊訳 みすず書房

ノルム環（共立講座現代の数学19）
和田淳蔵　共立出版 KK

正田昭・黙想ノート　正木　亮　吉益脩夫　編
みすず書房

現代日本経済論　正村公宏　著
日本評論社

フランス語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ
各シート10面付，前田陽一監修
白水社

アシモフ選集，第1～21冊　共立出版

天然物化学改稿編　岡本敏彦　広川書店

薬局製剤とその解説　野上　寿
南山堂

意味の意味　オグデン　リチャーズ　共著
石橋幸太郎訳
新泉社

日本古代社会構成史論　吉田晶著
塙書房

人間革命　第1～5巻　池田大作著
聖教新聞社

記号論理学
ノヴィコフ著　石木　新　訳　東京図書

未来へおくる科学レポート
茅誠司・赤堀四郎　著　毎日新聞

現代資本主義と金
エス・エム・ボリソフ著
桑野仁　他訳　東洋経済新報社

新物理化学問題の解き方
藤代亮一　東京化学同人

日本国勢図会 '70
矢野恒太郎記念会　国勢社

分子軌道法計算入門
（広川化学シリーズ8）
J.D.ROBERTS 著　湯川泰秀　共訳　広川書店

アカシヤの大連　清岡卓行　講談社

教官著作寄贈図書

——本館——

岡田　実（前　総長）

閃　光　第一部　鈴丘日記　3冊

昭.45（株）産報

原田敏丸（経　教授）

近世入会制度解体過程の研究

昭.44　塙書房

尾崎　弘（工　教授）

ディジタル計算機の論理設計

昭.44　朝倉書店

過度現象論（基礎電気工学講座8）

昭.44　共立出版

大学課程電気回路（1），（2）

昭.44，45 オーム社

中西信男（文　助教授）

暴力の心理　昭.45　福村出版

——中之島分館——

原　一夫（医　助教授）

脳疾患のX線診断　昭.45　医学書院

河村洋二郎（歯　教授）

新編歯学生理学　昭.45　医歯薬出版

全身疾患と口腔症状：歯家臨床家のための病理学　A.F.Gardner 著

昭.45　医歯薬出版

——工学部分館——

岡田　実（前　総長）

閃　光　第一部　鈴丘日記　2冊

昭.45（株）産報

——理学部図書室——

富沢純一（理　教授）

バクテリアファーヂの実験

昭.45　岩　波

昭和44年度専門課程指定図書受入状況調

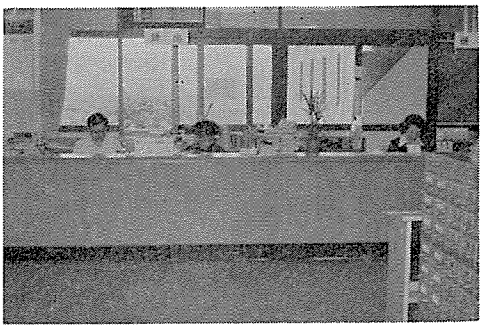
項目＼学部	総数 A 指定科目数	B 種類数	C 複本数	D 冊数	平均 E 金額(円)	F 指定科目受講者数	G 一科目当り種類数 (B/A)	H 一種類当り複本数 (C/B)	I 一冊当り金額(円) (E/D)	J 一科目当り受講者数 (F/A)	K 受講者一人当り複本率 (H/J)	L 一冊当り年間利用回数	備考 学生定員
文学部	30	48	112	118	219,900	892	1.60	2.33	1,864	29.73	$\frac{78}{1000}$	0.27	160
法学部	22	45	177	187	245,795	1,983	2.05	3.93	1,314	90.14	$\frac{44}{1000}$	1.27	320
経済学部	17	41	158	185	259,120	2,041	2.41	3.85	1,400	120.06	$\frac{32}{1000}$	0.83	380
理学部	5	108	156	163	289,600	404	21.60	1.44	1,776	80.80	$\frac{17}{1000}$	2.54	400
医学部	31	33	56	57	294,760	4,816	1.06	1.80	5,171	99.03	$\frac{18}{1000}$	3.28	400
歯学部	17	22	32	32	203,890	1,406	1.30	1.45	6,371	82.70	$\frac{17}{1000}$	5.72	220
薬学部	42	42	117	128	180,780	3,610	1.00	2.79	1,412	85.95	$\frac{32}{1000}$	4.10	160
工学部	54	64	243	443	806,120	3,579	1.19	3.80	1,819	66.28	$\frac{57}{1000}$	1.47	1,470
基礎工学部	60	116	164	195	419,490	5,803	1.93	1.41	2,151	96.72	$\frac{14}{1000}$	4.16	700
総計（総平均）	278	519	1215	1,508	2,919,455	24,534	(3.79)	(2.53)	(2,586)	(83.49)	$\left(\frac{34}{1000}\right)$	(2.63)	4,210

><><事務部の紹介（4）><><

運用第一掛・参考掛

本年4月1日に参考掛が発足して，本館における閲覧課は，運用第一掛と参考掛との2掛となった。現在，運用第一は掛長外4名（他に理図7．基図4）参考は掛長外3名，（内線　運用2137　参考2138)。

運用第一掛は，従来，本館における閲覧課ただ一つの掛であったため，その担当する業務は，広く多様であった。ために各員の兼務交代が多く，深く専念できぬ憾みがあった。



（カウンター）

参考掛の増設によって，以下のように業務も分担され，新に図書館活動が開かれるようになった。

運用第一掛〔業務〕カウンター（内線2120～1）

閲覧・貸出　図書館の主要な第一の業務であり，図書の整理を主とした旧来の保存図書館的性格を抜け出て，機能的に，利用の側に立って運営しようと心掛けている。

相互利用(学内)　中之島・薬学部・工学部・産研の各分館，およびその他図書室相互間の各種資料の利用は，学内総合目録と定期自動車便とによって利用数が逐次増大している。また図書共通貸出制度もより広く自由な利用へと進められた（本号3頁参照)。

書庫・閲覧室の管理整備　現在専任担当者がいないため，少ない機会をとらえて整理整頓をしたり，利用者各位へ館内マナーを訴えている次第。静かで快的な雰囲気を作るべく冷房，カーテン，絵画等で試みている。

その他　カード目録編成，図書の選定などの主要な業務がある。

参考掛〔業務〕カウンター（内線2120～1）

参考事務　1階開架室に参考図書コーナー（約3,000冊と15席）を設けている。掛員はカウンターに位置して，閲覧業務と協力しながら利用者の質問や依頼に応えたり，参考図書・目録の整備に努めている。

学内総合目録の編さん，現在，本館・各分館・各図書室を網羅した総合目録は，洋書については本館2階閲覧室にカード形式で置かれ，洋雑誌については“大阪大学学術雑誌目録―欧文編―”が昨年刊行された。和雑誌については本年着手する。

相互利用(学外)　学内を越えて他大学の図書館・国会図書館・情報センター・外国機関等との相互依頼は最近著しい増加を示している。学術研究にあっては，1図書館の資料だけでは，不十分になってきた。

複写（Xerox・Micro Film）　図書資料の有効な機能的な利用に複写は必須になっている。相互利用においてもそのほとんどは“複写物”による利用であり，Micro Film は近く Micro Fiche に切換えられて，より簡易・機能的になる筈である。

その他　広報，催物，視聴覚活動など。

以上，運用掛が学内面を，参考掛が学内はもちろん，学外へと領域を伸ばし，本館のサービス面を担当することになった。この2掛は業務の性質上，人的資質に頼ること大きく，各館相互連絡の緊密化・迅速化への要求は，ますます強まるであろう。とくに掛員の増員は，図書館

の整理部門の合理化（館報 Vol.3 No.1. 整理第一掛参照）による閲覧部門への比重の移動ということに将来はならねばならない。

〔今後の課題〕

開架図書の充実　開架図書は利用者に最も身近な図書であるが，15,000冊の現在数は貸出券登録者5,000人に対すると各人に僅か3冊である。利用度は高いが汚損も早い。また学習図書館・総合図書館としての収書方針からも，人文・社会・自然の各分野にわたって質量ともに充実しなければならない。

総合目録の充実　学内和書の総合目録が，残された課題である。かりに現在の図書が少なく，また多岐に分散しているとしても，総合目録の充実は，相互利用を通して緊密に結びつき，それらの図書への有効な潜在需要にも応えることになる。

参考事務の強化　まだ発足したばかりではあるが，将来は雑誌の Contents Service や SDI (Selective Dissemination of Information) も行ないたい。また側面的には参考質問に応じる担当者に各学問分野の大学院クラスの人達を当てる態勢も必要になるであろう。

会　議

――国立七大学附属図書館協議会―第44次――

45.5.20(水) 9.30～17.00　於　京都　御車会館

本学出席者　事務部長　整理課長　閲覧課長

5.19に国立七大学附属図書館部課長会議が開催され，①部課長の特別調整額の改善　②図書館職員の人事交流について討議が行なわれた。5.20の協議会は，当番館の京大宍戸館長が議長となり，数多くの協議題について，熱心に協議が行なわれたが，主なものは次のとおりである。

〔協議事項〕 1. 図書館業務の機械化について，（各大学とも概算要求を行ない，学内でシステム研究，要員の養成等を促進する。） 2. 図書専門職員の人事交流および処遇について，（人事交流を七大学間，地域内で促進するとともに，管理職登用以外の専門職としての処遇等を早急に具体化する。） 3. 大学における図書館長の地位について， 4. 図書館報発行の目的・意義について，5. 国大協図書館特別委員会の中間報告について，6. 図書館に対する学生の要求（図書雑誌の選択，利用規程等）について，7.中央図書館の果たすべき機能について　8.七大学附属図書館を地区情報センターとして強化することについて（3～9の協議題については，時間の関係上実情報告あるいは意見交換に終ったが，深く協議すべき協議題も含まれていたのは残念であった。）

〔要　望〕 ①図書館維持費の増額　②図書館業務機械化の促進　③図書館職員の処遇の改善（専門職制確立）　④定員削減の停止等を文部省に要望することになった。

〔次回当番館〕 46年度の第45次協議会は本学の当番で開催されることになった。

――近畿地区国公立大学図書館協議会―第39回――

45.5.13.(水) 10.30～15.00　於　大阪なにわ会館

本学出席者　事務部長　整理・閲覧両課長，受入・運用第二両掛長

当番館である大阪女子大高馬館長が議長となって開会されたが，主な議事内容は次のとおりである。

〔44年度報告〕 ①研修企画委—事業経過 ②廃棄基準委—協議検討事項が特殊性を帯びているため，今後，大阪市大の山田修氏に研究を一任 ③図書館業務機械化委—高性能パンチカードシステムのフローチャートを，各大学分担して作成し，RPG プログラムの講習会を行なった。④参考図書委—参考業務（主としてクイック・レファレンス）の実態調査を行なった。⑤外国文献購入調査委—主として外国学術雑誌の購入形態について調査を行なったが，各大学の規模によって相当の差異がみられる。
〔協議題〕 45年度の事業計画について— ①委員会—企画研修委は企画委として継続，図書館業務機械化委は，ミニコンピューターによるシステム研究等のため継続，参考図書委は，参考図書の最低基準，参考掛員の資質等を研究するために存続することとなった。②研修会—45年度は少なくとも1回以上開催することとし，テーマは運用業務に関するもの（開架図書参考業務等）および整理業務に関するもの（ソ連図書の整理，国立国会図書館印刷カードの導入等）のうちから企画委が検討することになった。
〔次期幹事館〕 京大（国立）大阪市大（公立）が再選された。
〔次回当番館〕 兵庫地区の神戸商船大が46年度当番館となった。

——工学部分館運営委員会——

45.6.12(金) 3.00～6.00 於 管理棟中会議室

Ⅰ 報告 ① 新館建設完成は7月中ないし8月上旬予定 ② JIS 全収版は大学中央留置予算より配当を受け購入 ③現在産研図書室を利用する工学部教職員学生の実態調査を実施（4月～5月）
Ⅱ 議題 ①44年度運営費決算および45年度予算案 決算報告は承認，予算案は若干の修正（「備品」）のうち構内運搬用電気自動車は道路交通法令を調査，合法的なように事前処置すること，閲覧室設備費（予算1,8234千円）は今年度は家具類の不足額を優先し，余剰分を視聴覚ホールの映写装置に振向ける） ② 定員増要望案 新館完成後，業務量大巾増を考慮して承認 ③ 応化系委員より図書館の Chemical abstracts の Collective index を応化図書室に置いてほしいと提案，この問題は「図書館のあり方」という基本的問題に関係するので次回討議 ④機械系委員より文献複写の学科間の相互サービス(校費振替)を各図書室で行ってほしいと提案次回まで学科図書掛員および関係各掛の了承を得ることにし次回に確認すること ⑤機械系同委員より各大学紀要を図書館に1セット完備してほしいと要望，図書館側は新館完成後これら資料を完備する方針であることを報告，委員会終了後各委員はほぼ完成している新館を見学した。

——理学部図書室運営委員会—第15回——

45.5.9(土) 11.00～13.00 於 化学系会議室

①理学部図書室運営委員会内規について 第14回委員会で同内規(案)を審議，理学部教授会4月16日に提案，その結果第4条修正，第6条追加で承認，45年5月9日より理学部図書室運営委員会内規として施行。②運営委員長選出 委員会内規に従い無記名投票により選挙，その結果千原教授を選出，任期は45年5月より2年間。③44年度図書室経費決算報告 および45年度予算案を審議，報告及び原案通り承認（決算報告，予算案省略）④購読雑誌のうち科学一般誌を図書室経費の図書費より支出，12点，予算約25万円 ⑤45年度学生用図書，指定図書の選択 予算が未決定なのでひとまず1講座1万円の割で選択，また本年度よりどの学科にも属さない図書費として約5万円計上する。

――基礎工学部図書委員会――

45.6.8(月) 13.30～16.00 於 小会議室

①44年度図書室経費決算報告・45年度予算案 決算報告通り承認，予算案は本年度図書室改装する案が委員会で可決されたため，そのための備品費36万円計上，その他雑誌購読費はスライドさせた。製本費についても値上りにともなう10万円増額その他昨年度と殆んど同額。②45年度指定図書および学生参考図書 予算配分および選定については昨年と同じ方式による。③図書室改装 抄録誌・参考図書を閲覧室に配架2次資料等を利用しやすくする。また特別閲覧室を廃止する。カウンターの位置を変え事務の合理化を図る。学生用ロッカーを設ける等改装案を可決した。④委員長交代 片山教授任期満了にともない，新委員長に難波教授選出 ⑤図書共通貸出制度について報告 くわしくは本号3頁掲載

◈ 図書館の概況

区分	本館	中之島分館	工学部分館	薬学部分館	産研分館	理学部図書室	基礎工図書室	計
蔵書数	453,627	148,287	155,724	13,904	23,019	64,236	31,365	890,162
44年度受入冊数								
図書冊数	26,722	5,662	9,658	905	1,834	3,680	5,094	53,555
雑誌種類数	3,074	2,222	2,075	174	244	729	750	9,268
図書費支出額(千円)	80,470	31,893	41,564	5,323	8,315	11,407	15,971	194,943
施設								
建物面積 (m²)	3,094	2,771 (268 182	2,950	336	292	509	403	10,355
座席数	500	(18)	200	67	24	49	143	1,165
館員数	36	20	10	4	2	6	4	82
利用								
貸出冊数	49,636	36,092	――	5,434	2,275	8,480	12,837	114,754
貸出人数	35,509	25,548	――	4,512	1,368	6,610	11,015	84,562
相互貸借(依頼冊数)	313 学外 216	501 学外 1,731	――	335	50	163	――	814 2,495
相互 〃 (貸出冊数)	49 学外 325	1,227 学外 1,982	――	343	129	358	――	1,276 3,137

※ 工学部分館は、9月に新館が開館される。44年度は移転のため貸出業務を停止した。
※ 中之島分館欄の（ ）内の数字は微研図書室のぶんを示した内数である。
※ 相互貸借の〝学外〟は複写物貸借で本館は校費・私費ともに扱い、中之島分館は私費のみを扱う。

大阪大学図書館委員会メンバー (45.7.16 現在)

図書館長	関 教授（委員長）		基礎工学部	大塚教授	難波教授
文学部	岸畑教授	池上教授	教養部	今川教授	高瀬教授
法学部	覚道教授	山口教授	微生物病研究所	川俣教授	加藤教授
経済学部	○高田教授	横山教授	産業科学研究所	◎石黒教授	粟谷教授
理学部	千原教授	国富教授	社会経済研究所	安井教授	畠中教授
医学部	◎坂本教授	浜 教授	蛋白質研究所	佐藤教授	倉橋教授
医学部附属病院	足高教授	浦生教授	事務局	田中局長	
歯学部	西嶋教授	下総教授	（オブザーバー）		
薬学部	◎田村教授	滝浦教授	医療技術短期大学部	桜井教授	賀集教授
工学部	◎安藤教授	岡田(光)教授	◎：分館長	○：地区運営委員長	

日　程

6月2日（火）ベルギー国立図書館長 H. Liebaers 教授講演"Belgian Libraries and Librarianship in an International Perspective"（万国博ベルギー館会議室）
6月5日（金）国立大学図書館協議会　第2回理事会（東大総合図書館）
6月6日（土）第2回大学図書館国際連絡委員会（東大総合図書館）
6月11日（木）国立大学図書館協議会・司書職制度調査研究班，第9回委員会（東大）
6月11日（木）近畿地区国公立大学図書館協議会・企画委員会（京大楽友会館）
6月12日（金）国立大学図書館協議会・図書館機械化調査研究班，第4回集会（東大）

行　事

4月25日（土）～5月2日（土）OECD（経済開発協力機構）刊行物展示会（本館）
5月26日（火）～28日（木）英国図書展示会（本館）
5月30日（土）～6月5日（金）専門課程進学者に対する学部図書館（室）のオリエンテーションが行われた。
6月10日（水）～11日（木）イタリア・フランス・スペイン洋書展示会（本館）

人　事

薬学部分館長更迭（4月1日付）
岩田平太郎分館長　辞任　　田村恭光分館長　就任

来　訪　者

5月6日（水）山本一郎　大蔵省主計局主計官補佐　他1名
村上俊和　文部省大臣官房会計課第3予算班国立学校第二係長
泉　寛清　〃　教育施設部計画課庶務係長
6月3日（水）田辺　広　東京大学附属図書館整理課長
黒住　武　〃　〃　閲覧課長

職員の異動

採　用　本館（総務掛）鈴木美津子（5月1日付）
〃（受入掛）北村照子（〃）
〃（整理第一掛）木村郁代（〃）
〃（理学部図書室）矢田喜美子（5月16日付）

配置換　薬学部庶務掛（本館総務掛）赤尾敦子（5月1日付）
本館整理第一掛（〃受入掛）橋本久美子（5月16日付）

訂正　前号3ページ下段，法学関係雑誌類充実の中で，「公報研究」とあるのは，「公法研究」の誤りでした。

あとがき　編集委員がかわりました。よろしくお願いします。

編集スタッフ　編集兼発行人　中野六郎　委員　田保橋彬（長）岩井　勇　松浦　正　津田恭司　山下　進　和久真弓　安井和子
レポーター　徳村泰弘　田中久文　町井照子　近藤敬子　篠田恭子　森三枝子

大阪大学図書館報　Vol. 4 No. 4 通巻17号　昭和45年7月1日（隔月刊）　編集発行人　中野六郎
発行所　大阪大学附属図書館　豊中市待兼山町1の1（〒560）　☎豊中 068（56）1151　内線 2138